

拡大教授会

○ 報告事項

1. 総務委員会報告
2. 研究科長・学部長・研究所長合同会議等報告（総B2号）（総B3号）
3. 各委員会報告（経B1号）
4. 研究インテグリティの取り扱いについて（研B3号）
5. 2024年度UTokyo Compass 推進会議教育改革分科会全学教育制度改革タスクフォース活動報告
6. 「PEAKの学生募集停止に関する教養学部からのお知らせ」について（教B1号）
7. その他

○ 議題

1. PEAK 学生募集停止に伴う4月入学生の取り扱いについて

教授会

○ 教員人事

退職転出等	報	告	1件
講師	報	告	2件
准教授	提	案	1件
	報	告	2件
教授	提	案	1件
	報	告	2件

計9件

委員会関係

教務委員会

財務委員会

・研究支援経費の申請について（経B1号）

教育研究経費委員会

情報基盤委員会

入試委員会

教養教育評価委員会

学生委員会

三鷹国際学生宿舎
運営委員会

図書委員会

前期運営委員会

後期運営委員会

建設委員会

環境委員会

・環境整備について

防災委員会

その他の

拡大教授会および教授会議事要旨(案)

日時 2025年4月17日(木) 15:01~17:38
場所 Zoom会議
出席者 247名

議題

○ 報告事項

1. 総務委員会報告

研究科長から、4月3日、4月17日開催の総務委員会について説明・報告があった。

2. 研究科長・学部長・研究所長合同会議等報告

研究科長から、4月8日開催の研究科長・学部長・研究所長合同会議について、資料(総B2号)に基づき説明・報告があった。

3. 全学環境安全衛生管理室等会議・事故災害報告

環境安全管理室鳥井寿夫室長から、資料(総B3号)に基づき報告があった。

4. 各委員会報告

- ・平岡秀一教務委員会委員長から、令和7年度入学者数について、資料(教B1号)に基づき報告があった。
- ・平岡秀一教務委員会委員長から、令和7年度進学者数一覧について、資料(教B2号)に基づき報告があった。
- ・平岡秀一教務委員会委員長から、2025年度Sセメスター(S1・S2ターム)定期試験の実施について、資料(教B3号)に基づき報告があった。
- ・平岡秀一教務委員会委員長から、2025年度Sセメスター(S1・S2ターム)成績報告について、資料(教B4号)に基づき報告があった。
- ・道上達男財務委員会委員長から、2025年度預託金制度について、資料(経B1号)に基づき報告があった。
- ・新井宗仁社会連携委員会委員長から、2025年度Sセメスター「高校生と大学生のための金曜特別講座」について、説明があった。

5. 国際卓越研究大学の申請について

研究科長から、スライド資料に基づき説明があった。

6. その他

- ・研究科長から、2025年度役職者について説明があった。
- ・高見典和研究科長補佐から、部局独自での英語版プレスリリース開始について説明があった。
- ・高見典和研究科長補佐から、大学院総合文化研究科・教養学部ウェブサイトのログインID・パスワードについて説明があった。
- ・市橋伯一情報ネットワーク室長から、全学ファイアウォールのルール変更について説明があった。
- ・若杉桂輔教授から、教養教育高度化機構「アクティブラーニングニュースレター」の発行について説明があった。
- ・研究科長から、研究科長室新メンバーについて紹介があった。
(寺田寅彦研究科長、川喜田敦子副研究科長、道上達男副研究科長、清水剛副研究科長、横山ゆりか副研究科長、新井宗仁総長補佐、塩見雄毅研究科長補佐)
- ・事務部長から、事務部異動者について紹介があった。
(延原和志教務課長、羽田智紀学生支援課長、小松淳一施設担当課長)
- ・新任教員挨拶があった。

○ 審議事項

1. 2024年度教授会慶弔費支出報告

- 研究科長から、資料（総B 5号）に基づき説明がなされ、審議の結果、了承された。
2. 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部の教員の任期に関する規則の一部改正について
川喜田敦子副研究科長から、資料（総B 6号）に基づき説明がなされ、審議の結果、了承された。
 3. 東京大学大学院総合文化研究科に置かれる講座の組織を定める内規の一部改正について
川喜田敦子副研究科長から、資料（総B 7号）に基づき説明がなされ、審議の結果、了承された。
 4. 東京大学における教員の任期に関する規則の一部改正について
川喜田敦子副研究科長から、資料（総B 8号）に基づき説明がなされ、審議の結果、了承された。
 5. クロス・アポイントメントの申請について
川喜田敦子副研究科長から、資料（総B 9号）に基づき説明がなされ、審議の結果、了承された。
 6. 東京大学とテヘラン大学との全学学生交流覚書の更新（新規参画）について
大塚修准教授から、資料（教B 5号）に基づき説明がなされ、審議の結果、了承された。

以下、教授会構成員対象の議題です。

○ 教員人事

退職転出等		1 件
准 教 授	報 告	1 件
教 授	報 告	1 件
推 薦	名誉教授	1 0 件

計 1 3 件

以上

議題及び資料

-
- 01 学内外情勢 総長
(資料1) 学内外情勢
-
- 02 ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)との全学協定締結 林理事
*** 審議**
(資料2) 国際交流協定・覚書締結計画書(ルーヴェン・カトリック大学)
-
- 03 SMBCフィナンシャル・グループとのパートナーシップ協定の締結 津田理事
*** 報告**
(資料3) 国立大学法人東京大学と株式会社三井住友フィナンシャルグループとの間におけるパートナーシップ協定(科所長会議限り)
-
- 04 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)中間評価結果 林理事
*** 報告**
(資料4) 4-1:ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)令和6年度中間評価結果報告、
4-2:ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)(中間評価)、
4-3:2025年度ジェンダー・エクイティ推進オフィス(IncluDE)の事業について
-
- 05 総長室総括委員会下の機構(アト秒レーザー科学研究機構)の設置 齊藤理事
*** 報告**
(資料5) 総長室総括委員会下の機構(アト秒レーザー科学研究機構)の設置
-
- 06 令和7年度リサーチ・アドミニストレーター推進室OJD実施者募集 齊藤理事
*** 報告**
(資料6) 令和7年度リサーチ・アドミニストレーター推進室OJD(On the Job Development)実施者募集について
-
- 07 2024年度「東大の研究室をのぞいてみよう!～多様な学生を東大に～」プログラムの開催報告 津田理事
*** 報告**
(資料7) 「東大の研究室をのぞいてみよう!～多様な学生を東大に～」プログラムの実施(報告)
-
- 08 令和7年度総長補佐の担当事項 津田理事
*** 報告**
(資料8) 8-1:令和7年度総長補佐が担当する総長・理事・執行役一覧表、
8-2:令和7年度総長補佐が担当(出席)する室・委員会等一覧表
-
- 09 寄付講座、社会連携講座及び国立研究開発法人連携講座等の設置等 齊藤理事
*** 報告**
(資料9) 寄付講座、社会連携講座及び国立研究開発法人連携講座等の設置等
-
- 10 その他 齊藤理事
(1) 兼業手続きの徹底
(資料10) 兼業手続きの徹底について
-
- (2) 令和7年度「東京大学安全の日」講演会 岸執行役
(資料11) 令和7年度「東京大学安全の日」講演会の開催について(通知)
-

議題及び資料

-
- 01 学内外情勢 総長
- (資料1) 学内外情勢
-
- 02 令和6年度内部監査実施報告及び令和7年度内部監査年次計画 岸執行役
- * 報告**
- (資料2) 2-1:令和6年度内部監査実施報告(抜粋)(学内教職員限り)、
2-2:令和6年度内部監査実施報告書(学内教職員限り)、
2-3:令和7年度内部監査年次計画(学内教職員限り)
-
- 03 東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト(TSCP)の現状と2025年度計画 出口執行役
- * 報告**
- (資料3) 東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト(TSCP)の現状と2025年度計画
-
- 04 GO GLOBAL東大留学フェア2025開催予定 矢口副学長
- * 報告**
- (資料4) GO GLOBAL東大留学フェア2025
-
- 05 寄付講座、社会連携講座及び国立研究開発法人連携講座等の設置等 齊藤理事
- * 報告**
- (資料5) 寄付講座、社会連携講座及び国立研究開発法人連携講座等の設置等
-
- 06 その他 齊藤理事
- (1) 令和7年度研究インテグリティの確保に関する学内構成員向け研修会
- (資料6) 令和7年度研究インテグリティの確保に関する学内構成員向け研修会の開催について
-

研究支援経費(間接経費)の取扱いについて

研究支援経費(間接経費)は、直接経費で実施される研究を維持するための、人件費、光熱水料、建物等維持管理費などに使われており、余裕がない状況にある。しかしながら、当該研究を行うためには施設の改修等直接経費では執行することのできない経費が発生する場合もあるため、以下の場合に限り、財務委員会の承認のもとで、研究代表者等に研究支援経費を配分することとする。

記

(目的)

- 1 研究を円滑に遂行するため、一定の制限内で研究支援経費を配分する。

(対象研究費)

- 2 科学研究費助成事業、受託研究、共同研究等、間接経費(研究支援経費)が計上されている全ての研究費を対象とする。ただし、寄附金は除く。

(申請者)

- 3 各研究課題の研究代表者等が申請手続きを行う。申請者(特任教員、特別研究員含む)は以下のいずれかであること。
 - ・本研究科着任後3年度以内(申請時)の者
 - ・大型プロジェクト研究(原則として1プロジェクトにつき当該年度の直接経費3,000万円以上)の代表者

(支援対象)

- 4 効果的かつ効率的に研究を行うために必要な経費を対象とする。詳細については、別紙「研究支援経費の申請にあたって」のとおり。

(申請限度額)

- 5 原則、各研究課題の当該年度に採択(配分)された間接経費(研究支援経費)の1/5の範囲内。ただし、申請総額が300万円を超える場合には、予め財務委員長と協議した上で申請すること。

(申請方法)

- 6 研究支援経費の申請を希望する者は、11月末までに別紙申請書に記入のうえ財務委員長宛(提出先:経理課財務チーム)に申請すること。ただし、本研究科着任が11月1日以降の場合には別途経理課財務チームに相談すること。また、大規模な施設改修等、原状復帰に多額の経費を要すると見込まれる申請の場合には、必ず事前に専攻・系・部会の了承を得ておくこと。

(決定方法)

- 7 原則、財務委員会にて12月に審議を行い決定する。

この取扱いは、令和1年10月1日から適用する。

研究支援経費の申請にあたって

研究支援経費の申請にあたっては、効果的かつ効率的に研究を行うために必要な経費を申請くださいますようお願いいたします。具体的には、以下のような経費が対象となります。

- ・ 実験機器等購入・修理(※直接経費での執行が困難な理由(予算の確保ができないという理由は不可)を必ずご説明ください。)
- ・ 研究のための施設改修
- ・ 非常勤教職員人件費 (※当該競争的資金等に関連する業務を担当し、かつ研究期間終了後の人件費予算確保ができる場合に限りです。)

当該競争的資金等の直接経費(以下「直接経費」という。)にて執行が可能なもの及び生活環境の向上が目的のものに関しては、支援の対象外となる場合がありますのでご注意願います。

【留意事項】

1. 以下の事例については、原則、直接経費にて申請願います。

- ・ パソコン及び周辺機器 (ハードディスク、プロジェクター、モニター、キーボード等)
- ・ 消耗品 (文房具、コピー紙等)

ただし、直接経費で執行できない理由 (当該競争的資金等のルールにより執行が不可等) がある場合には支援対象とします。予算の都合上、直接経費で申請できない等の理由は認められません。

2. 以下の事例のうち、生活環境の向上が目的のものは支援の対象外とします。

- ・ 掃除機
- ・ 空気清浄機 (除湿器・加湿器含む)
- ・ 冷蔵庫 (冷凍庫を含む)
- ・ 電子レンジ

ただし、研究のために必要であることが明確に説明できるものは支援対象とします。

3. 以下の事例については、研究用設備として支援対象とします。

- ・ 実験機器設置のための配管等の工事
- ・ 実験室等研究施設の空調設備
- ・ 実験室等研究施設の借用
- ・ ネットワーク環境の整備
- ・ 机、椅子、書架、ホワイトボード

(ただし、机や椅子については、生活環境の向上が目的と思われる高価な物品を支援の対象外とする場合があります。)

申請にあたっては、上記の留意事項を踏まえ、内容を精査し、疑義の生じる要求については、要求内容にその理由を明記してご提出願います。

令和 年度 研究支援経費申請書

申請者所属: _____
 申請者役職: _____
 申請者氏名: _____
 着任年度: _____
 内 線: _____
 E-mail: _____

獲得した競争的資金の種類及び間接経費の総額	<input checked="" type="radio"/> 科研 ・ <input type="radio"/> 受託研究 ・ <input type="radio"/> 共同研究 ・ <input type="radio"/> NEDO ・ <input type="radio"/> その他()	
	課題番号 又は プロジェクト番号	
	配分された間接経費の額 (研究支援経費申請年度に配分される間接経費の総額)	円
申請事項		
申請額 ※間接経費の額の1/5が上限	円	
専攻・系・部会の上承 (大規模修繕の場合のみ記入)	有	無

(所要額積算内訳)

事 項	所 要 額			備 考
	単 価	員 数	金 額	
要求分 (※プルダウンメニューより選択願います。)	円		円	
(※プルダウンメニューより選択願います。)	1,000	1	1,000	
(※プルダウンメニューより選択願います。)	2,000	3	6,000	
(※プルダウンメニューより選択願います。)	3,000	4	12,000	
(※プルダウンメニューより選択願います。)	5,000	1	5,000	
(※プルダウンメニューより選択願います。)	6,000	3	18,000	
(※プルダウンメニューより選択願います。)	500	1	500	
自己負担分 ●●ほか			0	
申請額 負担額 合計			42,500 0 42,500	申請額に誤りがあります 自己負担額があればその額を記載 ※税込
備考 (配分希望先)				

1. 獲得した競争的資金の申請書中、間接経費の額が記載されている頁のみ、写しを添付すること。※大型プロジェクト研究で申請する場合のみ。
2. 獲得した競争的資金毎に作成すること。
3. 備考欄への理由記載を行う場合、具体的かつ簡明に記載すること。(欄が足りない場合、別紙記載とすること。)
4. 見積書やカタログ等、申請額が客観的に判断できるものを必ず添付すること。
5. 消費税込みの金額とすること。

(別紙)

品目	空気清浄機 除湿器・加湿器含む
(上記で/その他を選択した場合、この欄に具体的な品目を記載願います)	
理由	研究目的として必要とする理由
(以下、記載)	

駒場 I キャンパスの環境整備について

日時：令和7年6月10日（火） 14：00～15：30

（雨天時は6月11日（水）に延期）

普通ゴミ（5種）：所定の集積所 計6か所

粗大ゴミ：18号館西側、数理科学研究科棟東側 駐車場

パソコン等：18号館西側のみ

（必ずハードディスク及びメモリーを消去・破壊し、再生不可能な状態で廃棄して下さい。）

落ち葉：バイオネスト 計16か所

※6月9日(月)～13日(金)の5日間は集積場所への駐車は禁止です。

※粗大ごみ、PCの回収は天候に関わらず**6月10日（火）のみ**となります。

※必ずゴミは**分別**してください。分別されていないゴミは回収しません。



【機密書類の廃棄処理】

当日併せて実施予定です。

後日、経理課用度チームから通知があります。

【放置自転車¹²の処理】

構内の放置自転車¹²の整理（撤去）も実施します。

不要物品の処分について

集積日時 6月10日(火) 9:00~16:00 ※時間厳守

集積場所 18号館西側、数理科学研究科棟東側 駐車場

【廃棄できないもの】

- ・分別されていない廃棄物
(例:封筒や文具(可燃)、工具(不燃)などが入ったままのプラチックケースや棚)
- ・危険物(例:ボンベなど)
- ・液体が入った容器、ガスが入ったままのスプレー缶
- ・プリンターのトナーカートリッジ、インク
- ・アスベストが含まれている可能性のある実験台



▶18号館西側の集積所

入口を2箇所のみ(1箇所は学生団体専用)といたします。

入口で事務担当者の確認を受けて廃棄してください。

- 13 -

※作業の妨げになりますので、廃棄後は速やかに退出してください。

研究インテグリティの取り扱いについて

総合文化研究科における運用

対象者		研究インテグリティ		研究倫理	
		研究インテグリティ教育	申告書	研究倫理教育	確認書
常勤の教員・研究者	2024.4.1 時点で本学に常勤として所属	eAPRIN 【研究インテグリティとその対応】 の受講とクイズの合格	様式第1号 申告事項のある場合	eAPRIN 【A-1 (生命医科学系), A-2 (理工系), A-3 (人文系)の いずれか】の受講と クイズの合格	確認書 A
	2024.4.2 以降に所属		様式第2号 申告事項のある場合		
非常勤の教員・研究者					
本研究科で研究活動を行っている雇用関係のない研究者					
博士課程学生					
修士課程学生					
	※1 に該当			Green Book の通読	
	※1 に該当しない	—			—
事務職員等	※2 に該当	—		Green Book 第6章の通読 または 東大 TV 公的研究費の適正執行について の動画視聴	確認書 B
	※2 に該当しない	—		—	—

※1 研究費を受給している者、競争的研究費・助成金に応募する者、研究プロジェクトの参加者リストに入っている者、各種実験の申請をする者

※2 秘書業務に従事している者、検収業務に関わる者、財務会計システムに登録されている者

- ✓ 本研究科で研究活動を行っている方は、毎年度、以下の4点を行う
 - ・ 「研究インテグリティの確保に関する教育」の¹受講とクイズの合格
 - ・ 「申告書(様式第1号/様式第2号)」(Excel)の提出(申告事項のある場合のみ)
 - ・ 「研究倫理教育」の受講とクイズの合格
 - ・ 「確認書 A」(直筆・PDF スキャン/紙媒体)の提出
- ✓ ※2 に該当する事務職員等は、毎年度以下の2点を行う
 - ・ 「研究倫理教育(コンプライアンス教育)」の受講
 - ・ 「確認書 B」(直筆・PDF スキャン/紙媒体)の提出

¹ 英語版がないため、日本語を解さない方は、今の段階で受講しなくても已む得ないものとしします。

2025 年度の対応

- ✓ 令和 7 年（2025 年）4 月 22 日付けで、統括責任者（研究インテグリティ）／理事・副学長から、研究インテグリティの確保に関する申告書を令和 7 年（2025 年）5 月 30 日までに提出するように依頼があった。
- ✓ 本研究科では、「申告書」の提出にあわせて、「研究インテグリティの確保に関する教育」の受講、「研究倫理教育」の受講、「確認書」の提出を毎年度行うことにしている。
- ✓ 「研究インテグリティの確保に関する教育」「研究倫理教育」の受講にあたっては、eAPRIN の ID が必要になる。
- ✓ 「研究インテグリティの確保に関する申告書」の提出期日が迫っているため「研究インテグリティの確保に関する教育」の受講と（申告事項がある場合の）申告書の提出依頼を行い、6 月中旬を目途に「研究倫理教育」の受講、「確認書」の提出の依頼を行う。
- ✓ 2024 年度は専攻・系・機構等に取りまとめを依頼していたが、2025 年度は研究支援チームから各個人宛に「研究インテグリティの確保に関する教育」の受講と（申告事項がある場合の）申告書の提出依頼をメールし、Forms で回答をするよう依頼する。
なお、本部通知の申告対象者については、2025 年 5 月 20 日（火）まで Forms での回答とアップロードを行っていただくようメールで依頼済である。

(再送re-sending : お詫びapology)【要対応】(5 / 20まで) 研究インテグリティの確保に関する教育
(通知) Regarding research integrity31_先生

差出人 教養経理課研究支援チーム <ken9.c@gs.mail.u-tokyo.ac.jp>

日付 2025-05-08 (木) 16:30

宛先

CC

添付ファイル 2 個 (78 KB)

xxxxxx.xlsx;

先生

平素よりお世話になっております。
教養学部等事務部研究支援チームです。

昨日お送りいたしました本メールのご案内に複数不備があり、
ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。
特に多くいただいたご質問への回答を踏まえて、昨日お送りしたご案内に青字で追記いたしました。
なお、一斉通知メールでお送りしたため個別の回答が難しく、本メールをご確認いただき、
改めてご不明な点がございましたら、再度当チームまでご連絡いただけますと幸いです。
なお、昨日Formsにて既にご回答いただいた場合も、
再度ご確認の上、ご回答いただきますようよろしくお願い申し上げます。

(訂正版 ご案内)

R6年度に教授会でお認めいただいたとおり、
本研究科で研究活動を行っている方は、毎年度、以下の4点を行うこと
になっております。

今回は、「研究インテグリティの確保に関する教育」と(申告事項がある場
合は)申告書の提出について、ご対応を願います。

(研究倫理教育については、別途通知いたします。)

○「研究インテグリティの確保に関する教育」

eAPRIN【研究インテグリティとその対応】の受講とクイズの合格

○「申告書(様式第1号)」(Excel) ※申告事項のある場合のみ提出

※添付した申告書が全て英語版でしたため、日本語版と英語版を添付いたしました。

※今年度の様式に差し替えました。

=====
【別途通知予定】

・「研究倫理教育」

eAPRIN【A-1(生命医科学系), A-2(理工系), A-3(人文系)
のいずれか】の受講とクイズの合格

・「確認書A」

※R7年度は電子署名で記載の上、
Formsのアップロードで提出とする予定です。

ついては、以下のとおり、ご対応をお願いいたします。

1. eAPRINのIDをご確認ください。

「研究インテグリティの確保に関する教育」、「研究倫理教育」の受講には、eAPRINのIDが必要です。

eAPRINのIDがない場合またはすでに、eAPRINのIDをお持ちでも上記のコースが受講できない場合は、当チームまでご相談ください。

<https://www.aprin.or.jp/e-learning/eaprin>

2. eAPRIN【研究インテグティとその対応】を受講し、クイズに合格してください。

※完了マークが表示されている場合も再度受講が可能です。

※受講期限は設定されていないため表示されていなくても問題ございません。また、修了証を提出いただく必要はございませんが、修了証には受講履歴は反映されません。

3. eAPRIN【研究インテグティとその対応】の受講後、

5/20（火）までFormsに受講後のテストに合格した日付の報告と申告書のアップロードをお願いします。

申告事項有の方のみ、申告書のアップロードが必要です。

また、Formsに記入いただく番号は【31】です。

Microsoft Forms URL

<https://forms.office.com/r/q7BixSKMnb>

※昨日回答いただいた場合も、再度ご回答いただきますようお願いいたします。

※申告書のアップロードが必須となっておりますが、必須マークを削除いたしました。

本メールをご確認いただいた上で、再度ご不明な点がございましたら改めて当チームまでご連絡ください。

~~~~~  
We apologise for the inconvenience caused by several deficiencies in the information sent to you yesterday.

Due to the simultaneous notification email, it is difficult to provide individual answers to the points you have asked about,

We apologise for the inconvenience caused by this and would like to provide an exhaustive answer to the most frequently asked questions.

Please note that we have created a new URL for Forms,

If you answered yesterday, we are very sorry for the trouble we have caused you,

We apologize for any inconvenience caused, but we would appreciate it if you could reply again.

Those conducting research activities at the Graduate School are required to do the following four things each year.

This time, we would like you to respond to the “Education on ensuring research integrity” and (if you have any matters to declare) the submission of a declaration form.

(A separate notice will be issued on research ethics education.)

○Please attend the【Research Integrity and Research Security】and passed the quiz.

○Please submit “Declaration Form (Form No.2)” (only if applicable)

※As all the attached declaration forms were in English, we have attached the Japanese and English versions.

※Replaced by the current year's form.

=====

[To be notified separately]

•Research Ethics Education

Take APRIN [Course A-1, Course A-2, or Course A-3] and take and pass the quiz.

Course A-1 is for Life and Medical Sciences, Course A-2 is for Science and Engineering, and Course A-3 is for Humanities.

Please decide which course to take based on your specialty.

•Submission of "Confirmation Form A"

Please sign the "Confirmation Form A" and fill in the required information.

(It is planned that the information will be submitted by uploading Forms, with electronic signatures.)

Please follow the instructions below.

### 1. Obtaining an eAPRIN ID

1) Fill out the attached "eAPRIN Account Application Form" and submit it to the Research Support Team as an email attachment.

(2) After 1-2 days, when the ID is issued, an email containing the URL, user name, and initial password will be sent from the APRIN Secretariat to the applicant's email address.

### 2. Please attend the【Research Integrity and Research Security】and passed the quiz.

※You can also retake the course if the completion mark is displayed.

※It does not matter if the course deadline is not displayed, as it is not set.

You do not need to submit a certificate of completion, but the certificate will not reflect your attendance history.

3. After attending eAPRIN【Research Integrity and Research Security】, please report the date you passed the post-course test to Forms and upload your declaration until Tuesday 20 May.

Only those with declarations are required to upload the declaration form.

Also, the number to be entered in Forms is [31].

Microsoft Forms URL

<https://forms.office.com/r/q7BixSKMnb>

※Even if you responded yesterday, we kindly ask you to respond again.

※Uploading the declaration form was mandatory, but the mandatory mark has been removed.

Best regards,

.....

教養学部等事務部経理課研究支援チーム

和氣・小椋（内線44419、47617）

ken9.c@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

.....

# 【研支】 2025(令和7)年度 研究インテグリティの確保に関する申告事項の有無について

Existence or non-existence of declared items related to ensuring research integrity.

こんにちは、■■■■さん。このフォームを送信すると、所有者に名前とメールアドレスが表示されます。

\* 必須

1. 氏名をご入力ください。Please enter your name.

\*

回答を入力してください

---

2. 所属専攻を選択してください。Please select your department.

\*

答えの選択



3. メールアドレスを入力してください。Please enter your e-mail adress.

\*

回答を入力してください

4. メールに記載されている指定の番号を入力してください。Enter the number provided in the email.


\*

回答を入力してください

5. 職名を下記から選択してください。Please select a job title from the options below.


\* 

01. 常勤の教員・研究者（教授、准教授、講師、助教、助手、卓越教授、特任教員、特任研究員、特任研究員PD・RPD・CPD）等） Full-time researchers (including professors, associate professors, lecturers, assistant professors, research associates, distinguished professors, project academic staff, project researchers, and project researchers(Japan Society for the Promotion of Science special researchers-PD・RPD・CPD))
02. 非常勤の教員・研究者（本学で管理する研究費を有する者。特任教員、特任研究員等） Part-time researchers (only those with a research grant managed by the University; including project academic staff and project researchers)
03. 本研究科で研究活動を行っている雇用関係のない研究者（本学で管理する研究費を有する者。名誉教授、特別栄誉教授、客員教員、共同研究員、受託研究員、私学研修員、日本学術振興会特別研究員（DC含む）・外国人特別研究員、客員研究員等） Non-employee researchers (only those with a research grant managed by the University; including emeritus professors, special university professors, visiting professors, collaborative researchers, contract researchers, private trainees, Japan Society for the Promotion of Science special researchers [including doctoral students], foreign researchers, and visiting researchers)

6. eAPRIN 【研究インテグリティとその対応】を受講し、クイズに合格した日付を入力してください。Please Enter the date you took eAPRIN 【Research Integrity and Research Security】 and passed the quiz. \* 

日付を入力してください(yyyy/MM/dd)



7. 「研究インテグリティの確保に必要な情報の申告書（令和7年度）記入要領」（[https://univtokyo-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/6118984178\\_utac\\_utokyo\\_ac\\_jp/EWYjastcFudEmY3ubDu2Lt4BHXOXCCI6vv0B3w6WDS0pdg?e=ez2K98](https://univtokyo-my.sharepoint.com/:b:/g/personal/6118984178_utac_utokyo_ac_jp/EWYjastcFudEmY3ubDu2Lt4BHXOXCCI6vv0B3w6WDS0pdg?e=ez2K98)）を確認の上、申告事項の有無を選択してください。Please review the "Instructions for Completing a Report of Information Necessary to Ensure Research Integrity (FY2025)" ([https://univtokyo.sharepoint.com/sites/utokyoportal/wiki/SiteAssets/d/Research\\_Integrity/Instructions%20for%20Completing%20a%20Report%20\(FY2025\).pdf](https://univtokyo.sharepoint.com/sites/utokyoportal/wiki/SiteAssets/d/Research_Integrity/Instructions%20for%20Completing%20a%20Report%20(FY2025).pdf)) and select whether there are any declarations to report. \* 

01. 有 There are declarations to report,
02. 無 There aren't declarations to report.

## Microsoft 365

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

**Microsoft Forms** | AI を活用したアンケート、クイズ、投票 [独自のフォームの作成](#)  
プライバシーと Cookie | [利用規約](#)

2024年度UTokyo Compass 推進会議教育改革分科会  
全学教育制度改革タスクフォース活動報告

2025（令和7）年3月27日

目次

|                                                 |           |
|-------------------------------------------------|-----------|
| はじめに.....                                       | 2         |
| <b>1. 学術長期構想にもとづく学部教育改革の検討状況及び提言.....</b>       | <b>4</b>  |
| 「一般選抜募集人員調整WG」2024年度活動報告.....                   | 4         |
| 「科類のあり方WG」2024年度活動報告.....                       | 5         |
| 「進学選択制度のあり方WG」2024年度活動報告.....                   | 6         |
| 「ダブルメジャー／メジャー・マイナー制度検討グループ」審議のまとめ.....          | 9         |
| 「正課外教育の活用検討グループ」による審議のまとめ.....                  | 13        |
| 「後期課程教育における課題整理グループ」による審議のまとめ.....              | 15        |
| <b>2. 検討経過.....</b>                             | <b>18</b> |
| (1) 教育改革分科会（参考）.....                            | 18        |
| (2) 全学教育制度改革TF.....                             | 21        |
| (3) 一般選抜募集人員調整WG.....                           | 23        |
| (4) 科類のあり方WG.....                               | 24        |
| (5) 進学選択制度のあり方WG.....                           | 25        |
| (6) ダブルメジャー/メジャー・マイナー制度の検討.....                 | 26        |
| (7) 正課外教育の活用に関する検討.....                         | 28        |
| (8) 後期課程教育における課題整理.....                         | 29        |
| <b>参考 学術長期構想にもとづく学部教育改革（検討素案）【2024年5月30日付け】</b> |           |

## はじめに

### ○全学教育制度改革タスクフォースの背景ならびに目的

- ・ 本学では、2021年度に UTokyo Compass を制定し、「東京大学ならではの創造的な挑戦の航路」を示した。2024年5月には、それをアップデートしたものとして、UTokyo Compass 2.0 をリリースしている。これらの基本文書のなかでは、本学における教育、とりわけ学部教育について「学術長期構想」が示され、長期的な展望のもとで、本学のありうべき教育システムについて検討するという方向性が打ち出されている。
- ・ UTokyo Compass に示された「挑戦の航路」を具体化する上で、2024年度には UTokyo Compass 推進会議が設置された。このうち、「学術長期構想」については、同会議の下位に設置された教育改革分科会、さらにその下位に設置された全学教育制度改革タスクフォース（以下、「本TF」という。）が検討を担うこととなった。
- ・ その一方で、上記の UTokyo Compass に依拠しつつ、2003年3月に制定されていた東京大学憲章をも参照するかたちで、教育担当理事・副学長のもと、「長期」（今後25年から30年程度先を見据えた期間）におよぶ学部教育のあり方の検討指針として、本学が具備すべきディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）の再定義に係る文書「学術長期構想にもとづく学部教育改革（検討素案）」が策定された。これは、役員懇談会（2024年5月23日、同年5月30日）、科所長会議（2024年6月4日）、教育運営委員会（2024年6月18日）の議を経て、「検討素案」として承認された。
- ・ 以上のような動向にもとづき、本TFは、「複雑な世界的課題に対応するための教育改革」を検討することとなった。
- ・ したがって本TFは、UTokyo Compass に掲げられた「学術長期構想にもとづく文理の枠組みを超えた教育強化」について、特に学部教育改革に焦点を当て検討を行うことを目的とするものである。

### ○今年度の活動について

- ・ 4月から6月にかけて、上記のとおり、教育担当理事・副学長の発議にもとづく役員懇談会、科所長会議、教育運営委員会の審議により、25年から30年先という長期の視点から社会状況および学術の進展を見据えつつ、教育の3つのポリシーの再定義を基礎として、「学術長期構想にもとづく学部教育改革（検討素案）」（以下、「検討素案」という。）が策定された。
- ・ これを受けて、7月より、検討素案にとりまとめた教育課題の検討のために、本TFの中に6つの検討グループを設置し、個別論点に関する議論を並行して進めた。

- ① 一般選抜の募集人員調整 WG
  - ② 科類のあり方 WG
  - ③ 進学選択制度のあり方 WG
  - ④ ダブルメジャー/メジャー・マイナー制度検討グループ
  - ⑤ 正課外教育の活用に関する検討グループ
  - ⑥ 後期課程教育における課題整理グループ
- ・ 併せて、12月に学生の学部教育にかかるニーズ把握を目的として、「未来の学部教育制度に関する学生座談会」を開催し、全10回、計32名の学生と、前期課程・後期課程のカリキュラム、進学選択制度、特別な教育プログラム、正課外教育等について意見交換を行った。
  - ・ 各教育課題の検討にかかる活動報告及び提言は、次節のとおり。

#### ○今後の活動について

- ・ 一部の課題は引き続き本TFにおいて精査する一方で、具体の提言として取りまとめが完了した事項については、教育運営委員会等関係諸会議に展開し、実装化にむけた教育部局等との議論を進める。
- ・ 全般的な検討の方向性については、前期課程・後期課程を通じた教養教育（リベラルアーツ）と専門教育との有機的な統合が課題となるものと考えられる。この点では、すでに現状において前期課程における専門教育の実践（展開科目、とくにアドバンスト理科・文科・文理融合など）があるとともに、後期課程における教養教育の実践（後期教養教育科目や部局横断型プログラムなど）があるが、こうした取り組みを全学として展開する仕組みのさらなる検討が求められる。
- ・ また、このように教養教育と専門教育とを統合してゆくことに関連して、進学選択の介在が両者を分断することにならず、むしろ両者の統合を促進することになるように、その方式を改めて設計することが必要である。
- ・ そうした検討の中で、前期課程における（そしてまた入学試験における）科類のあり方が改めて見定められるとともに、後期課程における学部単位のカリキュラム編成にいつその柔軟化を施す可能性が見極められる。後者においては、国家資格取得を第一義的な教育目標とする教育単位が、カリキュラム編成において柔軟化を受けつける余地が限られていることを併せて勘案することが必要となろう。

## 1. 学術長期構想にもとづく学部教育改革の検討状況及び提言

### 「一般選抜募集人員調整 WG」2024 年度活動報告

UCI 全学教育制度改革タスクフォース  
一般選抜募集人員調整 WG

#### 1. 目的・検討趣旨

##### ○目的・趣旨

- ・ CoD 開設に伴い、既存の学部定員から 100 名移管した際の（2027 年度選抜からの）一般選抜科類別募集人員の配分について短期的に検討を進める。

#### 2. 本年度の活動

##### ○一般選抜科類別募集人員の変更案の検討

- ・ 募集人員について複数パターンを検討し、理科三類を含む各科類から一定の割合で募集人員を削減する案を WG として採用した。
- ・ 変更案の採用にあたっては、①前期課程教育、②入学試験、③進学選択制度、④理科三類の募集人員の削減について、太田座長及び本部学務課が関係部局と調整を行い、実施上の問題がないことを確認した。

##### ○全学的な合意形成

- ・ 並行する学部入学定員（収容定員超過対応）の調整と連動し、2025 年 2 月より各全学会議に附議している。

（参考）会議付議状況

2/13 役員懇談会

2/18 教育運営委員会（審議：頭出し）

3/11 教育運営委員会（審議：合意）

##### ○今後の予定

- ・ 入試監理委員会（3/26 開催）での審議・決定後、4/8 科所長会議（入学定員、審議）と拡大入試監理委員会（科類別受入予定数、報告）、4/15 教育研究評議会（入学定員、審議）と進める予定。
- ・ 7 月上旬の入学者選抜要項発表と同時期に学外に公表する予定。

# 「科類のあり方 WG」2024 年度活動報告

UCI 全学教育制度改革タスクフォース  
科類のあり方 WG

## 1. 目的・検討趣旨

### ○目的・趣旨

- ・ 学術長期構想に基づき 25~30 年先の社会状況、学術の進展を見据えつつ「現代におけるリベラルアーツ」はいかにあるべきかという観点から、戦後から続く科類構成（4 科類制→6 科類制）について、そのあり方を改めて検討する。

## 2. 本年度の活動

### ○現行の科類制度に至る変遷や科類の理念の整理

- ・ 新制大学発足当初の科類の理念、4 科類制から 6 科類制へと変更となった際の変遷、東大紛争期やその後の科類制度を巡る経緯の整理を行った。
- ・ 戦後新制大学発足当初は教養教育の理念と科類編成のあり方が議論の中心であったが、1962 年に茅総長のもと 6 科類制が採用されることで、議論の中心は科類編成から、教養（前期）と専門（後期）の連携のあり方へとシフトし、前期課程におけるカリキュラムや進学選択（振分け）制度の改革に焦点化していくこととなった。

## 3. 次年度の申し送り事項

- ・ 科類のあり方の検討にあたっては、東京大学の教育の歴史や過去の構想を踏まえた上で議論を進める必要がある。
- ・ 科類構成は、前期・後期課程教育、進学選択制度、入試制度とも関連することから、短期的に結論を出すのではなく、学術長期構想のその他の事項の検討状況を見つつ、長期的視野から議論を進めていく。

## 「進学選択制度のあり方 WG」2024 年度活動報告

UCI 全学教育制度改革タスクフォース  
進学選択のあり方 WG

### 1. 目的・検討趣旨

#### ○目的・趣旨

- ・ 総合的教育改革による、制度変更の実施状況を踏まえ、今後の理想の進学選択制度の素案を検討。
- ・ 本 WG として、現行の進学選択制度の現状評価と課題に関する調査及び、進学選択制度の第一段階と第二段階の統合や評価方法の改善に向けた検討を実施。

### 2. 本年度の活動

#### ○現行制度の概要及び現行制度への変更背景の確認

- ・ 現行の進学選択の実施方式及び全科類枠、受入保留アルゴリズムの導入背景等について過年度の議事資料等に基づき確認した。

#### ○現行制度に対する学生の評価・意見、進学情報センター教員へのヒアリング、卒業時調査（大学教育の達成度調査）の分析

##### 【調査内容】

- ・ 進学情報センター教員へのヒアリング
- ・ 卒業時調査（大学教育の達成度調査）の定量分析、自由記述の整理
- ・ 学生座談会を通じた学生との意見交換

##### 【結果】

- ・ 現行の進学選択制度の導入当初には制度変更に伴う混乱は見られたものの、情報周知等の徹底に伴い現在は制度上の混乱は少なく、学生からもよく練られた制度であると肯定的意見が多い。
- ・ 定量分析の結果からも、旧制度（進学振分け）からの学生満足度の改善傾向がみられる。
- ・ 一方で、学生は現行の制度の形態に適応して履修や専攻を決定している。その結果、希望する分野と関連した授業科目ではなく点数が取りやすい科目を履修する行動や、学びたい専門ではなく取得した点に基づいてより人気の進学先を選ぶ専攻決定が見られる。これらは、前期課程の教養教育の実質化や後期課程の専門教育への円滑な接続を実現するための教育上の課題となっている。
- ・ また、有名進学校出身者・地方出身者間やサークルや友人関係等で進学に関する情報格差の問題が指摘されている。このため、各進学単位による情報周知の改善に加え、要望科目の設定や履修モデルの作成による専門への学びの動線の整備を求める要望

があった。

- ・ 受入保留アルゴリズムの拡大については、単願よりも志望が反映されやすい仕組みであることから、現行制度からの改善の方向性として肯定的な意見が多く見られた。一方で、成績優秀な学生は制度変更の恩恵を受けやすいが、成績不良の学生にとっては制度拡大による不本意進学が生じる可能性があるとの懸念の声もあった。
- ・ 評価尺度について、客観性（点数重視）と主観・意欲（志望理由等の反映）のどちらを重視すべきかに関する学生の意見は割れていた。

#### ○進学単位側への調査（アンケート調査）

- ・ 進学単位側において専門への意欲のある学生の確保のために、評価尺度をどのような意図で設定しているのか調査を行った。様々な評価尺度が設定されているが、その意図は概ね、以下の2点を中心となった。
  - ① 学生の学修上の動機付けと進学単位側が求める学生を評価する意図。
    - ☆ 進学後に学ぶ専門との接続を意識した履修や評価のみならず、進学単位によっては前期課程において幅広い学びを企図。
  - ② 学生の志望先のミスマッチの防止。
- ・ アンケート結果に基づきいくつかの進学単位に対して追加のヒアリングを検討。

#### ○受入保留アルゴリズム一本化にかかるシミュレーション

- ・ 現行の第一段階選抜（単願）と第二段階選抜（複願：受入保留アルゴリズム）を受入保留アルゴリズムに一本化した場合の、学生の進学先決定への影響を精査するため、過去4年間のデータをもとにシミュレーションを実施した。
- ・ シミュレーションの結果として、
  - ① 総じて現状よりも上位の志望に内定する学生の方が下位で内定する学生より多い。
  - ② 成績上位者のみならず成績下位の学生においても統合のメリットが見られる。
  - ③ 統合する場合、文科／理科や全科類枠、進学単位を跨いだ定数枠など、定数枠の設定に関する整理が必要。
  - ④ 面接や志望理由書等の成績以外の評価指標を活用する場合、統合によって確認しなければならない学生数が増加するため、確認のための十分な期間を確保することなどが必要。

○重率・履修点等の評価

- ・ 進学選択に用いられる平均点の各評価尺度の簡素化に向けた、効果検証を実施した。
- ・ 学生の成績（基本平均点）は全学生の平均点±10点の範囲内に集中しており、同点から0.1点以内の差で学生が連続的に分布し、成績上は能力や質について非常に均質性が高い。
- ・ そのため、重率によるわずか1点以下の点数の上下でも学生順位は大きく変動するため、進学単位側で適切に求める学生を評価する尺度の設定が必要。
- ・ 現状は学部・学科指定平均点、重率、履修点等制度が複雑な一方で、部局調査から各設定の意図は類型化されるため、引続き尺度の統合等の簡素化の検討が必要。

3. 次年度に向けた申し送り事項

- ・ 夏頃を目途に進学選択制度のあり方について、提言案を作成。教育運営委員会の下、各学部との進学選択制度の見直しに向けた検討へと移行する。
- ・ 提言の作成に向けて、各学部の進学選択担当者との意見交換や、制度に関する論点整理を引き続き進める。

## 「ダブルメジャー／メジャー・マイナー制度検討グループ」審議のまとめ

UCI 全学教育制度改革タスクフォース  
ダブルメジャー/メジャー・マイナー制度検討グループ

### 【検討過程概要】

- ・ 「学術長期構想にもとづく学部教育改革（検討素案）」にもとづき、「ダブルメジャー／メジャー・マイナー」制度を導入することの是非や導入するにあたっての課題を検討した。
- ・ まず、学内における副専攻制度・サブメジャー等の現状と、学外の制度導入事例の情報を共有し、導入した場合の課題を検討した。
- ・ 現状の各部局における学部教育の体制に鑑みれば、ダブルメジャーの導入は現実的ではないということが確認されたため、今年度はメジャー／サブメジャーの導入に議論を絞って検討した。長期構想としてはダブルメジャーの導入可能性も含めた全学の教育体制の抜本的な検討も求められるところであるが、まずは現行の学部教育のあり方をベースとし、段階的実装の観点から各部局の事情を踏まえた実現可能性や障壁等について、以下に論点をまとめた。

### ○実施にあたっての基本方針

現行の各学部・学科・課程のカリキュラムを、全学教育制度改革 TF にて学術長期構想に基づいて検討したディプロマ・ポリシーの4つのポイント（世界性・市民性・リーダー性・創造性）に照らした場合、部局の特性に応じてその力点にはヴァリエーションがある。高度に複雑な社会課題のように、必ずしも一つの学問分野の知見のみでは解決できない研究主題に取り組む学生が、専攻する分野の特性を補強し、異分野間の交流や対話のチャンネルを確保するために、副次的な専攻を履修できる環境をサブメジャーとして整備しておくことが必要であるとの認識に達した。

こうしたプログラムを魅力に感じると想定される、例えば専門と教養を両輪として広い視野と見識を保って分野を究めようとする学生や、分野横断型の課題やアプローチへの関心をもつ学生にとって、積極的に履修できるような制度を整備し、門戸を開いておくことが重要である。

国家資格取得のための必要要件となっている科目の提供や、高度に専門的・段階的なカリキュラム設定が必要な専門分野のように、専門教育上必修科目履修の割合が高く、学生の送り出しが現実的に困難な部局も存在している。現状の教育体制の延長で全学的な導入方針を検討する場合、そうした各部局の事情を踏まえた制度設計が必要である。学部・学

科・課程における卒業要件上、所属学生のサブメジャー認定が困難な部局においても、他分野を専攻する学生の受け入れを可能とする体制を整備すべきである。

#### ○制度の呼称

各学部・学科・課程ごとに DP の 4 つのポイント（世界性・市民性・リーダー性・創造性）のウェイトの置き方にはヴァリエーションがある。学生それぞれが専門性を修得した上で、それを補強するという観点からは、「メジャー／マイナー」より「メジャー／サブメジャー」という表現の方が積極的な意味づけが与えられるだろう。加えて、既存分野の専門的知見のみでは必ずしも対応できない問題に向き合うための素養として、視角を広げることが積極的に推奨する意味も込めうる。

長期的には、サブメジャーとして履修できる学問分野の範囲（履修対象ユニット）を明示的に設定し、制度としての枠組みを明確にすることで、学生が履修しやすい環境を整えることが効果的であろう。以下では、現状の教育ユニットごとに導入した場合の課題点の整理にとどめ、次年度以降の継続的な検討に委ねる。

#### ○履修者数の想定

履修者数は、先行事例を踏まえれば決して大きな割合にはならないと想定される<sup>1</sup>。学生・教員双方の負担を考慮しても大多数の履修を前提に設計することも現実的ではない。

履修者の割合によって必要な対応も異なるので、シミュレーションが必要となろう。モデルパターンをあらかじめ用意して試行的に運用することも想定される。また、文理を超えた重要度が高まる情報系のように、履修者の割合にかかわらず履修希望が集中する事態が想定される分野の受け入れに際しては、定員や選抜方法などの運用についても具体的な検討が必要となる。

#### ○部局間・部局内におけるサブメジャー履修学生の送り出し／受け入れ

基本方針で述べた通り、必修科目の割合が高く、学生のサブメジャー履修への送り出しが現実的に困難な部局においても、一定数他学部等からのサブメジャー履修の受け入れ体制を全学的に構築すべきである。部局ごとあるいは教員間の負担の不平等が生じる可能性も考えられ、どのような仕組みが望ましいか継続的な検討が必要である。

---

<sup>1</sup> ICU（収容定員 2,800 名程度）の場合、各学年 100 名程度（約 15%）が、ダブルメジャーまたはメジャーマイナーを選択。新潟大学（収容定員 9,300 名程度）の場合、毎年 600 名前後が副専攻制度の入門科目を履修するが、最後まで完遂する学生は 60 名前後となることが課題と認識されている。

#### ○修了要件単位数の設定

現状、自由選択の幅が割合大きい学部もある一方で、国家資格取得系分野を抱える学部・学科では必修科目の履修が主となり、自由選択の余地が少ない。教員数・授業設備等の事情や、履修認定の水準についての考え方も、学部・学科・課程ごとに異なる。したがって、サブメジャーの修了要件単位数は画一的に設定せずに幅を持たせ、受け入れ分野ごとにサブメジャーとして認定しうる最低限のラインを設定する必要がある。加えて、講義科目のみで修了可能であるか、演習や実習等の履修も必修となるのかについても分野によって異なるだろう。

本年度の議論では出発点として 12 単位を最低ラインとして提案したが、受け入れ分野によってはサブメジャー修了として質を保証するためにはより多くの単位設定が必要であるとの意見も出された。他方、12 単位をサブメジャーとして履修するのはメジャーの必修単位数を減らさなければ実現困難とする送り出し側の意見もあった。各部局の実情や卒業要件との関連で、さらなる検討が必要な部分である。

#### ○開講上の工夫

サブメジャー科目の開講に当たっては、メジャーの必修科目と同時限設定を避けねばならず、所属キャンパス間の移動など、本学特有の事情を踏まえて開講せねばならない。全学的に統一的な開講時限枠の設定は現状からはほぼ不可能であろう。また、受け入れにあたっては、教室や設備等のスペース的制約についても考慮が必要である。したがって、サブメジャー修了に該当する講義科目については、積極的なオンデマンド開講の活用が望ましい。

他方で、意見聴取ワークショップ参加学生の感想を踏まえれば、対面的な教員・学生間の議論や交流の教育効果も無視できない。例えば、演習・実習科目を必修として課す場合、サマーセミナーやウィンターセメスターの活用も考えられる。オンデマンド教材の準備にせよ、通常学期以外の開講を工夫するにせよ、担当教員の負担増の課題が大きい。対面実施に当たっては、先述のスペースの問題に加えて、実験装置などの利用可能性なども考慮しておかねばならない。

また、分野によっては学生のサブメジャーへの送り出しを許容するためにはメジャーの必修単位数の再検討が必要となるほか、アーリーエクスポージャーの積極的な展開を考慮することも必要だろう。前期課程のうちからサブメジャー修了を志す学生に対しては、持ち出し専門科目を多く提供することによって、後期課程でのサブメジャー履修を促す効果も持ちうる。

さらに、積み上げ型の学習を想定する分野では、他学部生が基礎的知識を持たずに専門教育を受けることは困難を伴うため、科目ナンバリングの導入などの工夫が必要となる。

○本年度議論できなかった課題

・学生へのインセンティブ

まず、制度導入が学生にとってどのようなインセンティブがあるかの検討が必要である。具体的にはキャリアパスや研究職も含めた就職活動において、本プログラム修了が積極的なアピールになるようなメリットを、ある程度明確に提示しておく必要がある。そのための一つの課題として修了認定の仕組みを整えておくことが考えられる。修了認定証等の交付や、サブメジャーとしての称号、オープンバッジの採用などがまずは想定される検討項目である。

加えて、制度を学生に十分に認知させるための周知方法の検討も必要である。まずは在校生に向けた入進学ガイダンスの機会をとらえたプログラム案内が必要であるが、前期課程「全学自由研究ゼミナール」の場を活用して、前後期課程をトータルにとらえて個々の学びをデザインするような授業設定も効果的であろう。他方、大学ホームページをはじめSNSや動画配信を通じた情報発信など、本学への入学を検討している受験生向けのアピールについても検討すべきである。高校段階で導入が進んでいる探究型学習などの成果を踏まえ、専門に特化した学びの志向ばかりではなく、既存の学問の枠組みに捉われない学びを期待する層に訴求できる制度となるかが問われる。

・導入に向けた作業課題

制度導入に向けてどのような作業工程が必要となるかについても具体的に検討できることが望ましい。例えば、全学横断的な実施体制と各部局の協力体制の構築、各教員への周知と了解の獲得、本部学務課と部局学務担当との業務担当の整理、実施に向けた財政的な裏付けなどについて、具体的な戦略図を示しておければ実現可能性が高まるだろう。

また、部局横断型プログラム等既存の施策との差別化や整合性についても検討が必要である。

・導入後の効果測定や制度見直し

制度導入後に効果を測定するために、評価指標（例えば、サブメジャー履修者数や学生の満足度、就職率など）を設定し、経年変化のモニタリング体制を用意しておくべきであろう。その際、制度そのものの効果測定を想定した指標と、履修した学生の学習効果の測定のための指標を前もって区別・整理しておくことが肝心である。そうしたデータを踏まえ、制度の見直し・修正の検討時期などについても事前に想定しておくべきである。

## 「正課外教育の活用検討グループ」による審議のまとめ

UCI 全学教育制度改革タスクフォース  
正課外教育の活用検討グループ

### 1. 目的・検討趣旨

- ・ 本 WG は、学術長期構想にもとづく学部教育改革として、正課外教育を活用した総合知（教養知）の涵養にかかる施策の検討を目的とする。

本学には多様な正課外教育プログラムや正課外活動が存在するが、本 WG では、社会連携推進課が所管する以下の「体験型教育プログラム」を対象に、特に単位付与可能なプログラムへの移行の是非を中心としつつ、いっそうの充実に向けた検討を行った。

- ① 体験活動プログラム
  - ② フィールドスタディ型政策協働プログラム（FS）
  - ③ 協創企業等との人材育成プログラム（UGIP: UTokyo Global Internship Program/UCOP: UTokyo CO-creation Program）
- ・ 検討にあたっては、社会連携教育 TF 及び社会連携推進課体験活動チームへのヒアリング及び意見交換、座談会を通じた学生のニーズの把握を行った。

### 2. 正課外教育の意義と体験型教育プログラムの単位化の課題

#### ○正課外教育の意義

- ・ 学生が大学の中に閉じず、社会との接点を持ち社会的責任を自覚すること、社会の中で協働し、学問の意味を説明し、理解を得る経験は重要である。
- ・ 学生の学びの実質化にあたっては、大学の中で学んだ理論を社会の中で実践するプロセスを繰り返すことは重要である。
- ・ 学術活動の中でも、正課外教育を通じて培われる社会的交流スキル等は重要である。

#### ○体験型教育プログラムの単位化の課題

- ・ 既存の体験型教育プログラムは、単位化を志向して設計されたものではなく、単位化に際し求められる教育の質、活動内容の要件を一律に課すことは困難である。
- ・ 体験型教育プログラムに参加する学生のニーズとしても、単位化に対してメリットを感じる声は少なく、むしろ単位化されることによって体験活動の持つ良さが損なわれることや、成績付与に伴う負担感、履修機会の減少を懸念する声が多い。

- ・ 正課外教育それ自体を単位化するのであれば、設計時点から単位化を志向し、活動の事前事後を含めた学修時間の確保や教育の質の担保を想定したプログラムを開発することが望ましい。

### 3. 提言

以上より、正課外教育は総合知（教養知）の涵養に有効ではあるが、現行の体験型教育プログラムをそのまま授業科目として単位化することは、教育の質や学修時間の確保、及び学生のニーズの観点から課題が多い。これを受けて、以下3点を提言する。

#### ○提言1 体験型教育プログラムのいっそうの充実化に向けた取り組みの実施

- ・ 学生等へのヒアリングの結果から、体験型教育プログラムへの関心はあるが様々な障壁により参加できない潜在的な学生層の存在が明らかとなった。関心のある学生層がより一層参加できるように、情報周知・発信方法の改善に取り組むとともに、参加学生に対する大学による財政的支援の充実や修了証・オープンバッジ等の発行などの方策を検討するよう、社会連携教育 TF に対し提言する。
- ・ また、学部側で体験型教育プログラムの単位認定を容易にするために、活動内容、活動期間・時間数の明確化や、事後の活動報告等、プログラム内容の規格化や活動の充実化に向けた取り組みを検討するよう、社会連携教育 TF に対し提言する。

#### ○提言2 各部局において学生の正課外活動を単位として認定する授業科目の設置

- ・ 体験型教育プログラムの持つ良さを損なうことなく、学生の正課外活動の取り組みを評価する仕組みとして、各学部・学科等において学生の参加した正課外活動を単位として認定する授業科目の設置を検討するよう、教育運営委員会に対し提言する。
- ・ なお、既に一部学部や大学院においては、大学として企画運営を行うインターンシップ以外に、学生が独自に参加したインターンシップ等の活動について、事前事後の審査のうえ単位として認定する授業科目を設置している事例も確認される。

#### ○提言3 学内関係部署との連携

- ・ インターンシップ等の学外での活動を正課教育の中で活用する仕組みについては、学内においても大学院学生を対象とした国際就業体験制度の構築や、College of Design 等においても検討が進められている。今後は学内の関係各所において課題の共有や情報交換を行い全学的に正課外教育を推進する体制を構築していくべきである。
- ・ 学修成果の可視化、情報周知の改善の観点については、現在開発中の UTONE と連携し、当該システムの中での活用方策等について検討するべきである。
- ・ 今後の検討に際しては、本 WG の意見交換概要等を適宜参照いただきたい。

## 「後期課程教育における課題整理グループ」による審議のまとめ

UCI 全学教育制度改革タスクフォース  
後期課程教育における課題整理グループ

### 1. 目的・検討趣旨

#### ○目的

- ・ 「学術長期構想にもとづく学部教育改革（検討素案）」（以下「検討素案資料」）にもとづき、「現代における専門性」はいかにあるべきか、またいかにそれを確保するかを、総合知（教養知）のいっそうの涵養を図ることも念頭に検討を行う。

#### ○検討趣旨

- ・ 特に、後期課程教育において、学生が自分の所属する学部学科等の標準カリキュラムにはない、他の専門的な科目を履修することを通じ、検討素案資料のディプロマ・ポリシー（DP）に掲げられた資質「世界性」「市民性」「リーダー性」「創造性」を涵養することは重要である。
- ・ 上記の観点から、以下のとおり検討を行った。
  - 既存の全学的な教育プログラムの特徴及び課題の把握とその評価
  - DP に掲げられた4つの資質涵養に向けた後期課程教育の改善にかかる論点整理
- ・ 以上にもとづき、短期的、中長期的な改革に関する提言を整理した。

### 2. 現状と課題

- ・ 全学的な教育プログラムは現状でも数多く実施されており<sup>2</sup>、いずれも検討素案資料に掲げられた総合知やDPと親和性が高いものである。
- ・ 一方で、学生及び教職員の認知度が低く、履修やプログラム関連授業の提供に繋がっていない等の課題がある。
- ・ 新たなプログラムの開発は、既存プログラムとの棲み分けの複雑化及び教職員の負担増に繋がることから見送り、既存のプログラムのさらなる活用のため短期的・中長期的に取り組むべき施策について整理した。

---

<sup>2</sup> 学部横断型教育プログラム、後期教養教育科目、全学部共通授業科目、グローバル教養科目、グローバルリーダー育成プログラム等

### 3. 短期的改革案

#### ○提言の方針

- ・ 既存の全学教育プログラムのさらなる活用、充実のための施策を提言する。

#### ○情報周知・発信の取り組み

- ・ 学生の履修を促進するため、理解し易い情報の発信を周知徹底する。
  - 情報を集約した Web ページの整備
  - 各部局へ周知・発信方法改善の依頼（教育運営委員会）、グッドプラクティスの収集・共有
    - 例：内定者ガイダンス(2年後期)等の場合での、専門教育の学びに加え DP に基づく主体的な学びを促進する取組の実施等
- ・ プログラムの充実化や授業の意図明確化のため、教員に対して基本理念を共有する。
- ・ 各学部学科等のカリキュラムモデルの中に、選択科目として他学部の開講する後期教養教育科目を位置づけ、学際的な履修を促す。

#### ○既存プログラムの整理統合・再検討

- ・ 後期教養教育科目と全学部共通授業科目の統合
  - 両者は趣旨等について一部重なる部分があることから統合し、学生が積極的に履修できる仕組みを検討する。
- ・ 各部局が提供する後期教養教育科目の体系的編成
- ・ 科目ナンバリングの実質化の検討
  - 従来の科目ナンバリングがより実質的に活用されるよう検討する。

#### ○学生の履修促進に向けた取組

- ・ オンライン受講・オンデマンド授業の推進
  - 時間割の制約により履修が難しい学生のために、オンライン受講やオンデマンド授業の提供を可能にする。
- ・ インセンティブの付与（履修奨励策の導入）
  - 修了証の発行及び電子化（デジタル署名付き PDF）
  - オープンバッジ<sup>3</sup>の発行
  - マイクロクレデンシャル、教育プログラムの可視化
- ・ 評価基準及び成績評価方法の工夫
  - 専門の知識を十分に持たない学生の参加障壁を下げるため、評語（優上～不可）ではなく合否方式での成績評価を学生が選択可能とする。

---

<sup>3</sup> 学部横断型教育プログラムにおいて既に試行実施

#### 4. 中長期的改革案

##### ○提言の方針

- ・ 分野を横断した学びと国際化推進のため、中長期的な視点から学部後期課程教育のあり方の見直しについて提言する。

##### ○学部の特長や学生の意欲に応じた、多様な学修機会の提供

- ・ (例) 多様な学修機会のレベル
  - a. Major/Submajor 制度 (新規) …「狭く・深く」2つの異なる専門を追求する学び
  - b. GLP、部局横断型プログラム、短期留学、インターンによる研鑽…「問題意識」を育む学び
  - c. (他学部開講の) 後期教養教育科目の履修…「広く・浅く」幅広い視野を得る学び
- ・ 国家資格の関係で履修選択の自由度が低い学部 (医学部等) や、専門分野を深く追求したい学生は、c を最低限 (例: 4 単位) とすることができる。
- ・ 一方、履修選択の自由度が高い学部 (文学部や教育学部等) では、a・b を基本としつつ c も選択可能とし、個々の専門の特性・興味・関心に応じて自由に選べるようにする。このように、各学部や学生の状況に応じたフレキシブルな制度設計を行うことで、無理なく全学生の DP に掲げた能力の涵養を目指す。

##### ○各学部のカリキュラムの柔軟化

- ・ 必修が多く他学部授業の履修が困難な学部 (工学部や理学部等) に対し、カリキュラム改革の検討を依頼する。

※本来の専門科目の履修も当然可能とすることから、専門教育を軽視するものではない。

※国家資格が関係する学部・学科は除外する (医学部や薬学部等)。

##### ○教養教育と専門教育の教育課程編成の見直し

- ・ 「1 年次駒場、2,3 年次本郷、4 年次駒場」や「前期教養 1 年半駒場、専門課程 + 後期教養 2 年半本郷」など、前期課程教育 (教養教育) を含めた抜本的な教育編成改革についても長期的な視点から議論を行う。

##### ○卒業後も続く学びのパス形成

- ・ UTONE 等の活用により、全学教育プログラムの授業を卒業生も利用可能とすることで、リカレント教育・生涯教育につなげる。

## 2. 検討経過

### (1) 教育改革分科会（参考）

#### 令和6年度第1回

日時：2024年（令和6年）4月23日（火）16:30~17:30

議題：

1. UCI 教育改革分科会について
2. 学術長期構想にもとづく学部教育改革案について
3. 今後のスケジュールについて
4. その他、意見交換

#### 令和6年度第2回

日時：2024年（令和6年）6月5日（水）10:00~11:00

議題：

1. 学術長期構想にもとづく学部教育改革検討素案の更新について
2. 今後の検討体制及び検討スケジュールについて
3. 委員からの情報共有等
4. 次回の教育改革分科会について
5. その他、意見交換

#### 令和6年度第3回

日時：2024年（令和6年）6月26日（水）10:00~11:00

議題：

1. 社会連携 TF 報告（社会連携教育の実施状況について）
2. 学術長期構想関係の直近の検討状況
3. 各教育課題の検討体制及び目的について
4. 委員からの情報共有等
5. 次回の教育改革分科会について
6. その他、意見交換

#### 令和6年度第4回

日時：2024年（令和6年）7月22日（月）13:00~14:00

議題：

1. 未来社会協創推進本部（FSI）改組に伴う WINGS 関係内規改正
2. 国際卓越大学院教育プログラムの点検・評価について

3. 国際卓越大学院教育プログラム申請様式の変更について
4. 学術長期構想関係の直近の検討状況
5. 委員からの情報共有等
6. その他、意見交換

#### 令和6年度第5回

日時：2024年（令和6年）9月26日（木）13:00~14:00

議題：

1. 全学教育制度改革 TF の検討状況について
2. 委員からの情報共有等
3. その他、意見交換

#### 令和6年度第6回

日時：2024年（令和6年）10月28日（月）13:00~13:30

議題：

1. 全学教育改革 TF の検討状況について
2. 委員からの情報共有等
3. その他、意見交換

#### 令和6年度第7回

日時：2024年（令和6年）11月28日（木）11:00~11:30

議題：

1. 全学教育制度改革 TF の検討状況について
2. 委員からの情報共有等
3. その他、意見交換

#### 令和6年度第8回

日時：2024年（令和6年）12月23日（月）13:00~14:00

議題：

1. 全学教育制度改革 TF の検討状況について
2. 座談会実施状況報告（速報）
3. 委員からの情報共有等
4. その他、意見交換

令和6年度第9回

日時：2025年（令和7年）1月27日(月) 13:00~14:00

議題：

1. 全学教育制度改革 TF の検討状況について
2. 委員からの情報共有等
3. その他、意見交換

令和6年度第10回

日時：2025年（令和7年）2月13日(木) 11:00~12:00

議題：

1. 全学教育制度改革 TF の検討状況について
2. 全学教育制度改革 TF 活動報告（中間まとめ）について
3. 委員からの情報共有等
4. その他、意見交換

令和6年度第11回

日時：2025年（令和7年）3月27日(木) 11:00~12:00

議題：

1. 全学教育制度改革 TF の検討状況について
2. 全学教育制度改革TF活動報告について
3. 次年度の全学教育制度改革TF（学術長期構想）の検討事項について
4. 委員からの情報共有等
5. その他、意見交換

**令和6年度教育改革分科会委員名簿**

| 職名      | 氏名     | 備考   |
|---------|--------|------|
| 理事・副学長  | 森山 工   | 分科会長 |
| 理事・副学長  | 藤垣 裕子  |      |
| 執行役・副学長 | 太田 邦史  |      |
| 執行役・副学長 | 浅見 泰司  |      |
| 執行役・副学長 | 田浦 健次郎 |      |
| 副学長     | 矢口 祐人  |      |

(2) 全学教育制度改革 TF

令和6年度第1回

日時：2024年（令和6年）4月23日（火）15:00~16:00

議題：

1. UCI 教育改革分科会及び全学教育制度改革 TF について
2. 学術長期構想にもとづく学部教育改革案について
3. 今後のスケジュールについて
4. その他、意見交換

令和6年度第2回

日時：2024年（令和6年）5月21日（火）15:00~16:00

議題：

1. 学術長期構想にもとづく学部教育改革検討素案について
2. 昨年度実施部局長アンケートの結果概要について
3. 前回宿題事項について
4. 今後のスケジュールと各種課題検討体制の割り当てについて
5. その他、意見交換

令和6年度第3回

日時：2024年（令和6年）6月26日（水）13:00~14:00

議題：

1. 学術長期構想に関する検討状況について
2. 各種課題検討体制及び検討事項について
3. その他、意見交換

令和6年度第4回

日時：2024年（令和6年）9月19日（木）10:00~11:00

議題：

1. 各検討課題作業グループによる検討状況について
2. その他、意見交換

令和6年度第5回

日時：2024年（令和6年）10月22日（火）15:00~16:00

議題：

1. 各検討課題作業グループによる検討状況について

2. 学術長期構想の検討状況について
3. その他、意見交換

#### 令和6年度第6回

日時：2024年（令和6年）11月19日（火）13:00~14:00

議題：

1. 各検討課題作業グループによる検討状況について
2. 学生との座談会の実施について
3. 学術長期構想の検討状況について
4. その他、意見交換

#### 令和6年度第7回

日時：2024年（令和6年）12月16日（月）11:00~12:00

議題：

1. 各検討課題作業グループによる検討状況について
2. 学生との座談会実施報告（速報版）
3. 大学教育の達成度調査2次分析報告
4. その他、意見交換

#### 令和6年度第8回

日時：2025年（令和7年）1月21日（火）13:00~14:00

議題：

1. 各検討課題作業グループによる検討状況について
2. 年度末に向けた検討スケジュールについて
3. その他、意見交換

#### 令和6年度第9回

日時：2025年（令和7年）2月7日（金）16:00~17:00

議題：

1. 各検討作業グループによる検討状況について
2. 2024年度全学教育制度改革タスクフォース活動報告書（中間まとめ）について
3. その他、意見交換

令和6年度第10回

日時：2025年（令和7年）3月19日（水） 10:30~11:30

議題：

6. 各検討課題作業グループによる検討状況について
7. 2024年度全学教育制度改革タスクフォース活動報告書について
8. 次年度の全学教育制度改革タスクフォースの検討事項について
9. その他、意見交換

令和6年度全学教育制度改革 TF 委員名簿

| 部局        | 職名      | 氏名    | 備考 |
|-----------|---------|-------|----|
|           | 理事・副学長  | 森山 工  | 座長 |
|           | 執行役・副学長 | 浅見 泰司 |    |
|           | 執行役・副学長 | 太田 邦史 |    |
|           | 副学長     | 星 岳雄  |    |
|           | 副理事     | 蔭山 達矢 |    |
|           | 総長特任補佐  | 福留 東土 |    |
| 法学政治学研究科  | 教授      | 橋爪 隆  |    |
| 医学系研究科    | 教授      | 加藤 元博 |    |
| 工学系研究科    | 教授      | 和泉 潔  |    |
| 人文社会学研究科  | 教授      | 西村 明  |    |
| 理学系研究科    | 教授      | 荻原 直道 |    |
| 農学生命科学研究科 | 教授      | 岩田 洋佳 |    |
| 経済学研究科    | 准教授     | 山本 浩司 |    |
| 総合文化研究科   | 准教授     | 湯川 拓  |    |
| 教育学研究科    | 教授      | 高橋 美保 |    |
| 薬学系研究科    | 教授      | 池谷 裕二 |    |

(3) 一般選抜募集人員調整 WG

- ・ 学務課と森山理事の定例 MTG（一般選抜募集人員調整 WG 委員を兼ねる）の場において、議題の一つとして議論。
- ・ 2024年（令和6年）5月20日、6月3日、7月22日の定例 MTG において意見交換を行い、科類別募集人員の変更案を WG として決定。

### 令和6年度一般選抜募集人員調整WG委員名簿

| 部局      | 職名      | 氏名    | 備考 |
|---------|---------|-------|----|
|         | 理事・副学長  | 森山 工  |    |
|         | 執行役・副学長 | 太田 邦史 | 座長 |
|         | 総長特任補佐  | 福留 東土 |    |
| 総合文化研究科 | 教授      | 寺田 寅彦 |    |
| 総合文化研究科 | 教授      | 松田 恭幸 |    |

#### (4) 科類のあり方WG

##### 令和6年度第1回

日時：2024年（令和6年）8月6日（火）11:00~12:00

議題：

1. 科類のあり方WGの検討体制・目的について
2. 科類制の導入と変遷及び科類制を巡る論点について
3. 科類制の在り方に関する意見交換
4. 今後の進め方について

##### 令和6年度第2回

日時：2024年（令和6年）10月21日（月）9:00~10:00

議題：

1. 科類のあり方を巡る理念について
2. 科類制のあり方に関する意見交換
3. 今後の進め方について

### 令和6年度科類のあり方WG委員名簿

| 部局      | 職名     | 氏名     | 備考 |
|---------|--------|--------|----|
|         | 理事・副学長 | 森山 工   | 座長 |
| 経済学研究科  | 准教授    | 山本 浩司  |    |
| 薬学系研究科  | 教授     | 池谷 裕二  |    |
| 総合文化研究科 | 教授     | 寺田 寅彦  |    |
| 総合文化研究科 | 教授     | 松田 恭幸  |    |
| 教育学研究科  | 教授     | 額賀 美紗子 |    |

(5) 進学選択制度のあり方 WG

令和6年度第1回

日時：2024年（令和6年）8月7日（水）13:00~14:00

議題：

1. 進学選択のあり方 WG の検討体制・目的について
2. 進学選択制度の過年度の検討経緯について
3. 進学選択制度のあり方に関する意見交換
4. 今後の進め方について

令和6年度第2回

日時：2024年（令和6年）9月2日（月）13:00~14:00

議題：

1. 進学選択制度の変更経緯（変更に至る制度理念及び課題）について
2. 前回 WG でいただいたご意見に関する進捗状況について  
（学生ニーズ、有識者ヒアリング、シミュレーション）
3. 意見交換

令和6年度第3回

日時：2024年（令和6年）10月3日（木）15:30~16:30

検討事項：

- ・ 既往調査（達成度調査）結果から、進学選択に対する学生ニーズの把握
- ・ 進学情報センター教員へのヒアリング及び意見交換

令和6年度第4回

日時：2024年（令和6年）11月28日（木）15:00~16:00

検討事項：

- ・ 進学選択の第1段階と第2段階を統合した場合のシミュレーションの準備状況について、相田座長より情報共有
- ・ 今後の検討事項として、学務課から進学選択制度の各制度に関する論点の再整理についての説明

令和6年度第5回

日時：2025年（令和7年）2月20日（木）17:00~18:00

検討事項：

- ・ 受入保留アルゴリズム一本化にかかるシミュレーション結果の報告と意見交換

- ・ 学務課による評価尺度（指定平均点、重率、履修点）の効果検証についての報告
- ・ 2024年度進学選択のあり方WG活動報告案の作成状況及び今後の進め方の確認

#### 令和6年度進学選択制度のあり方WG委員名簿

| 部局        | 職名   | 氏名    | 備考 |
|-----------|------|-------|----|
| 工学系研究科    | 教授   | 和泉 潔  |    |
| 農学生命科学研究科 | 教授   | 岩田 洋佳 |    |
| 総合文化研究科   | 准教授  | 湯川 拓  |    |
| 特命教授室     | 特任教授 | 相田 仁  | 座長 |

#### (6) ダブルメジャー/メジャー・マイナー制度の検討

##### 令和6年度第1回

日時：2024年（令和6年）8月9日（金）13:00~14:00

議題：

1. 検討体制・目的について
2. 過年度のダブルメジャー/メジャー・マイナー制度に関する検討状況
3. 意見交換
4. 今後の進め方について

##### 令和6年度第2回

日時：2024年（令和6年）9月25日（水）14:30~15:30

検討事項：

- ・ ダブルメジャー制度の導入を前提とした場合の今年度中の議論のゴールについて
- ・ ダブルメジャー制度に対する学生ニーズの調査方法について

##### 令和6年度第3回

日時：2024年（令和6年）10月24日（木）9:00~10:00

検討事項：

- ・ 国内大学におけるダブルメジャー制度の先行事例についての報告と意見交換

##### 令和6年度第4回

日時：2024年（令和6年）11月29日（金）9:00~10:00

検討事項：

- ・ ダブルメジャー制度の導入にあたっての論点整理及び各学部の導入イメージを事前課題とし、それらをもとに意見交換

令和6年度第5回

日時：2025年（令和7年）2月7日（金） 9:00~10:00

検討事項：

- ・ 西村座長作成の「審議のまとめ（案）」に対して寄せられた事前意見を踏まえての意見交換

令和6年度ダブルメジャー/メジャー・マイナー制度の検討委員名簿

| 部局        | 職名     | 氏名    | 備考 |
|-----------|--------|-------|----|
|           | 理事・副学長 | 森山 工  |    |
|           | 副理事    | 蔭山 達矢 |    |
| 法学政治学研究科  | 教授     | 橋爪 隆  |    |
| 医学系研究科    | 教授     | 加藤 元博 |    |
| 工学系研究科    | 教授     | 和泉 潔  |    |
| 人文社会系研究科  | 教授     | 西村 明  | 座長 |
| 理学系研究科    | 教授     | 荻原 直道 |    |
| 農学生命科学研究科 | 教授     | 岩田 洋佳 |    |
| 経済学研究科    | 准教授    | 山本 浩司 |    |
| 総合文化研究科   | 准教授    | 湯川 拓  |    |
| 教育学研究科    | 教授     | 高橋 美保 |    |
| 薬学系研究科    | 教授     | 池谷 裕二 |    |

(7) 正課外教育の活用に関する検討

令和6年度第1回

日時：2024年（令和6年）8月21日（水）11:00~12:00

検討事項：

- ・ グループの検討体制・検討目的に関して
- ・ 今後の検討事項について（理念、手段、学生ニーズ、設計、課題）

令和6年度第2回

日時：2024年（令和6年）11月6日（水）9:00~10:00

検討事項：

- ・ 社会連携教育 TF の江頭座長と意見交換を実施し、既存の3プログラムの単位化あるいはそれ以外の方策についての検討

令和6年度第3回

日時：2024年（令和6年）12月23日（月）9:30~10:30

検討事項：

- ・ 学生座談会についての報告と、それを踏まえた意見交換

令和6年度第4回

日時：2025年（令和7年）2月14日（金）13:00~14:00

検討事項：

- ・ 報告書（案）をもとに意見交換、体裁等についての共通理解を確認

令和6年度正課外教育の活用に関する検討委員名簿

| 部局     | 職名  | 氏名    | 備考 |
|--------|-----|-------|----|
|        | 副学長 | 星 岳雄  |    |
|        | 副理事 | 蔭山 達矢 |    |
| 教育学研究科 | 教授  | 高橋 美保 | 座長 |

(8) 後期課程教育における課題整理

令和6年度第1回

日時：2024年（令和6年）8月2日（金）14:00~15:00

議題：

1. ミッション・体制
2. ディプロマ・ポリシー
3. 後期課程教育に関する参加委員による意見交換
4. 今後の進め方
5. 過年度の検討状況の概要報告
6. 予算について

令和6年度第2回

日時：2024年（令和6年）10月8日（火）16:30~17:30

議題：

1. 後期教養教育科目の現状分析
2. 全学教育プログラムの概観
3. 今後の方針

令和6年度第3回

日時：2024年（令和6年）11月5日（火）17:00~18:00

検討事項：

- ・ 全学教育プログラムをどのように評価するか（How）
- ・ 後期課程教育のあり方について（短期的・長期的な視点からの検討）

令和6年度第4回

日時：2024年（令和6年）12月2日（月）16:30~17:30

検討事項：

- ・ 第3回までの議論に基づく今後の基本方針案に対する意見交換

令和6年度第5回

日時：2025年（令和7年）1月6日（月）12:30~13:30

検討事項：

- ・ 本検討グループの審議まとめ（案）に対して寄せられた各委員からの事前意見を踏まえた意見交換

令和6年度後期課程における課題整理委員名簿

| 部局       | 職名      | 氏名    | 備考 |
|----------|---------|-------|----|
|          | 理事・副学長  | 森山 工  |    |
|          | 執行役・副学長 | 浅見 泰司 |    |
|          | 副理事     | 蔭山 達矢 |    |
| 法学政治学研究科 | 教授      | 橋爪 隆  |    |
| 医学系研究科   | 教授      | 加藤 元博 |    |
| 人文社会系研究科 | 教授      | 西村 明  |    |
| 理学系研究科   | 教授      | 荻原 直道 | 座長 |
| 総合文化研究科  | 准教授     | 湯川 拓  |    |

- ・本資料における「長期構想」は、25~30年先の社会状況および学術の進展を見据えた将来計画を指す。
- ・本資料は、「ディプロマポリシー」を検討したのちに、「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」の順で検討したものである。「アドミッションポリシー」は、入試企画室において検討するものであり、本資料では「学術長期構想」の観点から考えうる論点を挙げるにとどめている。

## 1. ディプロマポリシー

- UTokyo Compass 「地球的な視野と高い倫理と粘り強い実践力をそなえた人間」  
⇒ 「世界性」という論点へ
- UTokyo Compass 「社会のさまざまな場を支える、対話力に優れ、専門知と教養を備えた知識人」  
⇒ 「市民性」という論点へ
- UTokyo Compass 「次世代のリーダーとして聞こえにくい声にも耳を傾け、自らの声はどう響くかにも自覚的な共感形成の能力」  
⇒ 「リーダー性」という論点へ
- 藤井総長 「21世紀型のリーダー／クリエイター」「創造的地球市民」  
⇒ 「創造性」という論点へ

### (1) 世界性

- 多様性（多様な文化や価値観など）への感受力とその尊重姿勢
- 国際性（自己相対化に根差した多元的な視点、語学力を含めたコミュニケーションスキル）
- 地球規模の課題に対する視点
- 人類史と自然史を大局的に踏まえつつ、将来世代を見通す俯瞰力

### (2) 市民性

- 社会との交流・連携・協調に係る資質・能力
- 対話力（創造的対話力）と共感力
- 社会的責任の自覚化、公正な倫理観、人権意識（ELSI や RRI の尊重を含む）
- 学術を社会で活かしつつ、社会的現場が抱える課題や困難と向きあう姿勢

### (3) リーダー性

- 高度な専門性を有すこと
- その一方で、知的好奇心をもちつつ、専門性にとらわれない視野の広がりをもつこと
- リーダーシップとチームワーク、共感形成によるインクルージョンの実現力
- 困難に対するレジリエンス

### (4) 創造性

- 知の蓄積を踏まえつつ、これまでにない独自の発想によって新たな地平を切り拓く資質・能力
- 多様な主体との対話にもとづいて新たな地平を構想し、それを協働的に実現する資質・能力

※ただし、以上の4つの論点における各種の資質・能力には重なりあうものが多く、現実にはこれらが多様なバランスで組み合わせられることに留意する必要がある

## 2. カリキュラムポリシー

- UTokyo Compass 「包摂性への感受性と創造的な対話力をはぐくむ」「国際感覚をはぐくむ」「専門性に加

えて幅広い教養と高い倫理性を有する人材の育成」

- 教育の専門性と総合性が相互補完的に作用することを念頭に、「現代における教育の専門性」とは何か、「現代における教育の総合性（リベラルアーツ）」とは何かをともに問い直し、両者の再定義を踏まえた相互連関と相互浸透を実現する
- 既存の教育体系において本学が得意とする教育（専門性を踏まえたリーダー性の涵養など）と、本学が開発すべき教育（市民性と対話・共感・協働の涵養など）との相互補完と相乗効果を図る

#### (1) 後期課程教育のあり方

学術の進展を見据えつつ、「現代における専門性」はいかにあるべきかという観点からの専門性確保  
その一方で、総合知（教養知）のいっそうの涵養

⇒後期教養教育科目や横断型教育プログラムのいっそうの展開（その意義の学生への周知を含む）  
ダブルメジャー制（メジャー／マイナー制）の導入等による視野の多角化

体験型活動やインターンシップのいっそうの充実化

25～30年先を見据えたグローバルキャンパス形成への取り組み

⇒学生の国際流動性をいっそう増す取り組み（受け入れ・送り出しともに）

後期課程での国際性と語学力のいっそうの涵養（グローバル教育センターをはじめとする）

#### (2) 前期課程教育のあり方

学術の進展を見据えつつ、「現代におけるリベラルアーツ」はいかにあるべきかという観点

25～30年先を見据えたグローバルキャンパス形成への取り組み

a. 短期的な現行カリキュラムの検討課題：学年とsemester（ターム）を通じた無理のない学び  
修得単位数の削減（とくに理科生について、前期課程修了要件となる単位数の削減）  
総合科目と展開科目における教育の専門性と総合性との体系的な統合  
学生の国際経験のいっそうの充実化

b. 中長期的な検討課題：細分化された科類構成の大局的な再編

⇒前期課程カリキュラムの抜本的見直しが必要。入試方式の改編とも連動

#### (3) 進学選択方式のあり方

前期課程と後期課程をより緩やかに接続

前期課程と後期課程との相互浸透により、学びにおける学生のいっそうの主体性を促進

⇒受入保留アルゴリズム1回で進学選択を実施（原則として第一段階のみで進学選択を実施）

【課題】各進学単位における順位づけ等の教務的実務の増大と、多様な基準によるその複雑化

#### (4) College of Design（学修5年一貫）の位置づけと、それとの有機的な連関（横糸と縦糸）

後期課程での教育の横断性

### 3. アドミッションポリシー【入試企画室において検討】

○多様な学生を学内に呼び込む

○学生のリベラルアーツへの志向性を堅持する一方で、特化した専門への志向性もすくい上げる

考えうる論点には、例として以下のようなものを挙げることができる。

(1) 選抜方式のいっそうの多様化

(2) 学校推薦型選抜の堅実な実施、あるいは拡充

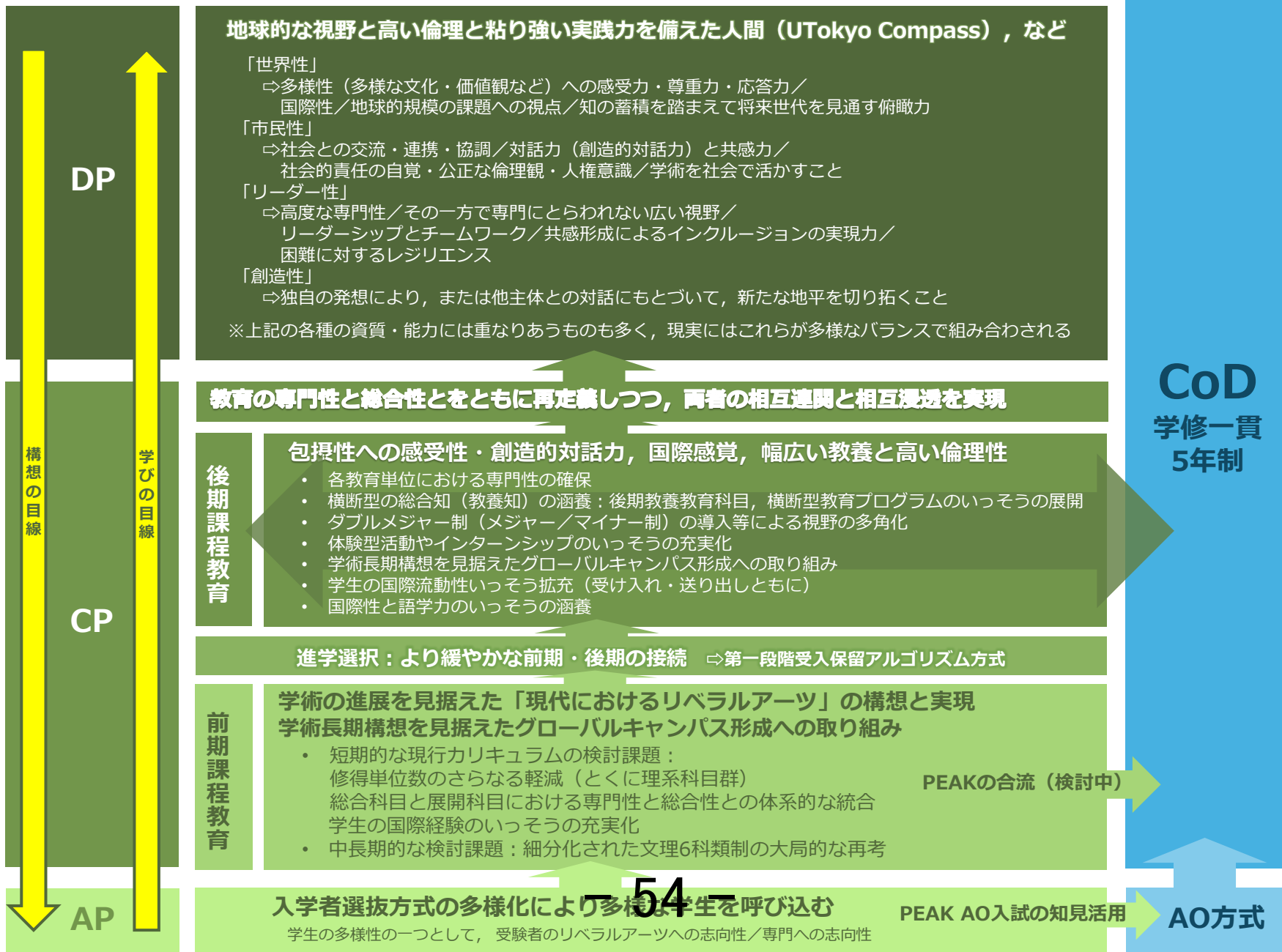
(3) 外国学校卒業学生特別選考（第1種・第2種）の堅実な実施

(4) 国際化推進学部入試（PEAKAO入試）⇒College of Designの選抜にその知見を活用

# 学術長期構想にもとづく学部教育改革（検討素案）

※本資料における「長期構想」は、25~30年先の社会状況及び学術の進展を見据えた将来計画を指す。  
 ※アドミッションポリシーは入試企画室の検討事項であるが、「学術長期構想」の観点から考えうる論点を挙げている。

2024/05/30 森山 工



# 教B-1号

PEAKの学生募集停止に関する教養学部からのお知らせ

本日付で本学よりPEAK（Programs in English at Komaba, 教養学部英語コース）の募集停止に関する周知がなされましたが、そこで述べられているように、本学の国際化をさらに加速させるために、新たにUTokyo College of Designという新しい学部を設立することになりました。教育の国際化というPEAKの取り組みは、このUTokyo College of Designに引き継がれたと言えます。そこで、UTokyo College of Designの開設に伴い、PEAKの募集を停止することになりました。これに関連して、在学生の皆さんにいくつかお知らせしたいことがあります。

まず、PEAKの募集停止はPEAKがすぐになくなることを意味しません。PEAKそのものは現在在籍する皆さん、そして募集停止までに入学される皆さんが卒業するまで、上記のUTokyo College of Designとは別に存続します。つまり、上記の募集停止は皆さんの大学での学びには何ら影響を及ぼさず、皆さんはPEAKに在籍したまま、駒場キャンパスで授業や教員から指導を受けることとなります。これは皆さんが留学等により留年したような場合でも変わりません。どのような場合においても、皆さんが上記のUTokyo College of Designに移籍するようなことはありません。

次に、PEAKとしては、2026年秋に入学する学生についてはその学生募集を行います。つまり、まだ新生は入学してきます。また、これらの学生に関するPEAK後期課程（教養学部国際日本研究コース、国際環境学コース）への進学も通常通り行われます。

一方で、4月入学生の方で進学選択あるいは学校推薦型選抜・外国学校特別選考によりPEAK後期課程に進むことを考えておられる方もいらっしゃるかと思います。この点は現在も検討中ですが、少なくとも学校推薦型選抜・外国学校卒業学生特別選考第1種は2026年4月入学者まで、進学選択によるPEAK後期課程への進学は2028年4月入学者まで継続する予定です。

なお、大学院のプログラムであるGSP・GPESは募集停止などを行う予定はありません。これらはPEAKとは別に学生募集を継続する予定です。

最後に、卒業後にご自分の卒業したプログラムであるPEAKがなくなるために、卒業生としてのネットワークが失われる可能性があります。この点については上記のUTokyo College of Designの卒業生とPEAKの卒業生が一体化した形で卒業生ネットワークを作れるように関係者と協議をしています。いずれにせよ、皆さんは卒業をしても何らかの形でPEAKのみならず東京大学の卒業生ネットワークの中にいることとなります。

学部からお知らせすべき内容は以上です。教養学部としては改めてこれまでのPEAKの卒業生及び関係者に感謝するとともに、全てのPEAKの学生が卒業するまでPEAKでの教育を推進しつつ、今後とも教養学部として一層の国際化を進めてまいります。何卒宜しくお願い致します。

東京大学教養学部

## Announcement on the Suspension of PEAK Program Recruitment by the College of Arts and Sciences

As mentioned in today's announcement from the University regarding the suspension of PEAK (Programs in English at Komaba) recruitment, we have decided to establish a new faculty - the UTokyo College of Design - to further accelerate the internationalization of the University. The mission of internationalizing our education, which has been at the core of the PEAK program, will now continue at the UTokyo College of Design. This means that, with the launch of the new college, we will cease accepting applications for PEAK. We have several important announcements for current students regarding this transition:

First, the suspension of recruitment does not mean the immediate discontinuation of the PEAK program. PEAK will continue to operate independently of the UTokyo College of Design until all current students, as well as all future students admitted before the suspension, have graduated. In short, this change will not affect your studies - you will continue your academic journey as a PEAK student at the Komaba Campus as originally planned, including attending classes and receiving supervision from your academic advisor. Your status as a PEAK student will remain unchanged, even if your studies are extended due to studying abroad or other circumstances. You will not be transferred to the UTokyo College of Design,

Second, PEAK will continue to accept new students for entrance in fall 2026. Admissions that year will proceed as previously. These students will advance to the PEAK Senior Division —the Japan in East Asia and Environmental Sciences courses of the College of Arts and Sciences— as in previous years.

Some of you may be considering applying to the PEAK Senior Division courses through the Senior Division Selection, Recommendation-Based Entrance Examination or Special Screening Test. While discussions are still ongoing, we currently expect that the Recommendation-Based Entrance Examination and Special Screening Test for these courses will continue until at least April 2026, and that the Senior Division Selection process will continue until at least April 2028.

In addition, please note that there are no plans to suspend the recruitment for GPEAK programs, namely GSP and GPES. These programs will continue to recruit independently from the undergraduate PEAK program.

Lastly, we understand that some students may be concerned about access to an alumni network after the PEAK program is terminated. Please be assured that we are actively working to establish a new, integrated alumni network that will include both PEAK and UTokyo College of Design graduates. In any case, even after graduation, you will remain

connected to a broad and supportive alumni community of PEAK and the University of Tokyo.

This concludes the current information from the College of Arts and Sciences. We would like to once again express our deep gratitude to all PEAK graduates and those who have supported the program. We remain committed to delivering a high-quality education to all current and incoming PEAK students and will continue working toward further internationalization of the College of Arts and Sciences.

We sincerely appreciate your continued support.

College of Arts and Sciences, the University of Tokyo